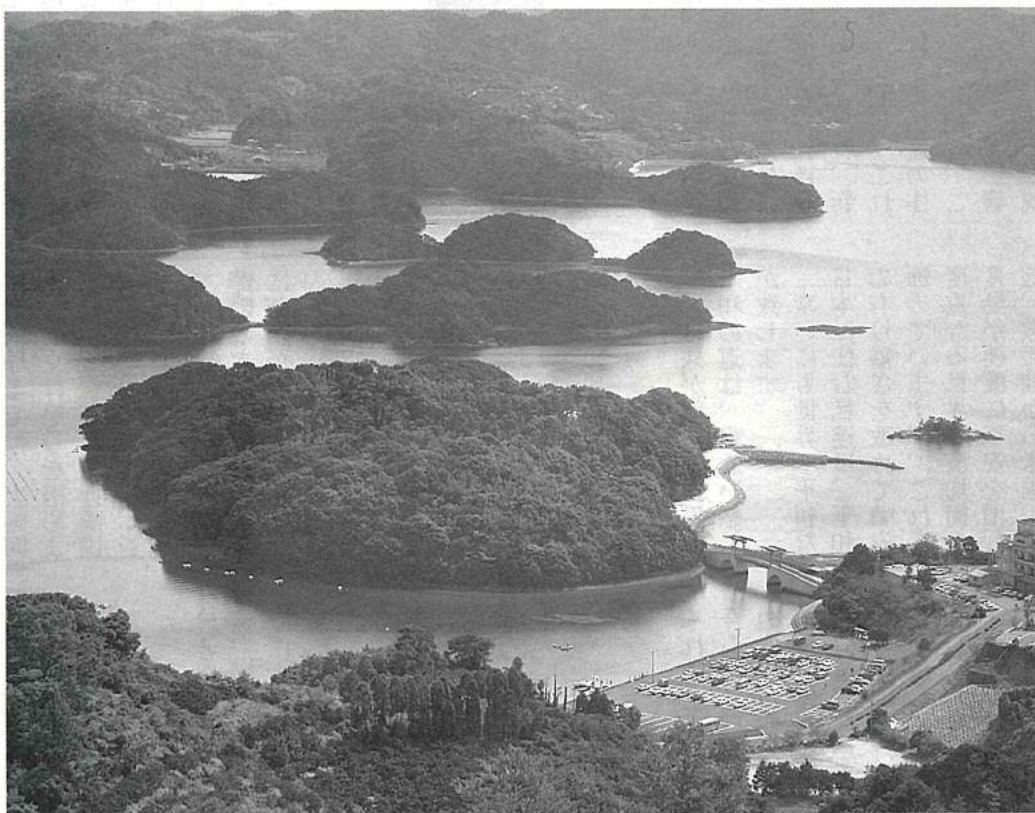




展望台よりいろは島を望む(中央 花と冒険の島)

26

1993. 1

平成五年の新春を

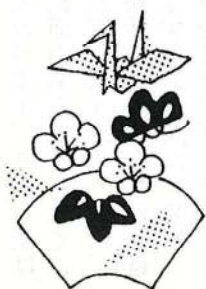


会長
金子 宜嗣

現在は、二年越しのパ
ブル崩壊後遺症の景気低
迷に加え、汚職政治不信
の極に達し、私達国民と
しては、トンネルの出口
がなかなか見えない今の
政策不況に、やり切れな
いきもちが鬱積していま

整備開始をはじめ、年ご
とに世界的規模で開催の
「佐賀インターナシヨナ
ル・バルーンフェスタ」
も、昨秋、何百機ものバ
ルーンが集まり、青く澄
んだ佐賀平野の上空を色
とりどりに飛び回り、そ

物詩を見せてくれるでし
う。
一方、地域開発には、
佐賀空港を始めJR新幹
線、高速道の整備、及び
福岡地区の自動車生産開
始に伴い、傘下関連産業
の、佐賀・鳥栖へ新工場



新年明けましておめで
とうございます。
福岡市佐賀県人会の皆
様には新しい年をお迎え
になり、今年こそはと、
希望に満ちていられるも
のと、ご推察申し上げます。

すが、必ずや《禍いもつ
て福をなす》の例えもあ
りますので、一日も早く
景気好転を期待しながら
もう暫く待ちましょう。
今年には私たちの故郷、
佐賀県は《吉野ヶ里が本
格的歴史公園》としての

の盛観さは、いかにもメ
ルヘンの世界になりきり、
経済不況でともすれば沈
みがちな私達の気持ちを、
しばし忘れさせてくれま
した。今年の秋も稲の刈
り入れが済む頃に、佐賀
市は国際色豊かな秋の風

建設等が見込まれていま
すので、不況とは申すも
のの、福岡の諸工業の充
実と、福岡九州国際貿易
港と空港の整備等により、
地域的に隣接する佐賀県
は、今後九州経済活動発
展に伴いまして、より中
心的役割を果たす（我ら
のふる里）に変貌しつつ
あります。従いまして、
福岡に在住しております
私達は、お互いに信頼の
絆を益々強くして、各自
の繁栄と、より一層の県
人会発展を念願致し、新
年のご挨拶を申し上げます。

お慶び申し上げます



名誉会長
永倉 三郎

謹みて新春のご挨拶を
申し上げます。会員の皆
様には佳き新年を、ご家
族とともに迎えの事と
存じます。
月日の立つのは早いも
ので平成の世も五年にな
りますが、この間、宇宙
規模での私共を取り巻く

持ちを禁じ得ません。加
えて地球上では、大同同
士の対立は鳴りを潜めま
したが、代わりに近隣国
同士のアジア《カンボジ
ア》、アフリカ《ソマリ
ア》、或いは中近東地区で
際限なき国際緊張と、常
に葛藤が繰り返されてお

シア、E.C諸国をはじめ
とする世界経済不況の渦
中にある、我国もその
影響を暫く受け、それを
避けて通る事もできませ
ん。それに追い打ちを駆
けるように、平成二年以
後、国内のバブル経済崩
壊による景気の急転落下、

環境は、オゾン破壊が進
むに連れて、いろんな環
境悪化、又は人工衛星打
ち上げ累積数も、五百発
以上が打ち上げられ、新
旧衛星が飛び回り、これ
からもこれ等が私達の住
む地球上に増え続き、こ
れが将来に及ぼす影響
が生じるのか、不安な気

り、私共が望む全世界的
平和の道は、程遠い感じ
が致します。
幸いにも世界一平和な
日本に住む私達は、平和
の有り難さを改めて噛み
締めています。これも、
度重なる世界経済均衡の
変動が極度に不安を増し、
茲、数年前から米国、口

それは止まる所を知らず、
今もって、不況低迷回復
の兆しは期待出来ず、今
年の全体的見通しは内外
共に遺憾ながら余り明る
い希望は期待できない感
じが致します。
しかしながら、私達の
住む九州福岡市は、全国
的景気低迷の中にあって

も、今から躍動する余力
を持つ九州・沖縄八県の
中心的地域経済性の要素
をもとにして、九州新幹
線の本格着工を始め、自
動車交通網の充実・高速
化、物流産業促進、国際
新空港の新設など、近隣
外国貿易を対象にした韓
国、中国及び東南アジア
向けの新規プロジェクト
が続々計画されて、国内
では、今後も比較的に企
業進出の気配が強く感じ
られます。

福岡は申すまでもなく、
かかる環境下の中心にな
り、九州の拠点としてあ
らゆる経済活動に、極め
て将来ともに期待されま
すので、私達福岡におり
ます佐賀県人は、現在の
不況現象に脅えず、お互
いに、情報交換と景気動
向把握を協力しながら、
経済変化に即時対処され
ますよう念願申し上げます。
新年のご挨拶と致します。

ふろしや

佐賀県人会堅粕支部

十日会

佐賀県出身の方々と、お互いに福岡市内近くにおられます会員同士が毎月親睦会を催して既に四十三年の歴史を迎えている(十日会)をお訪ね致しました。この会については、「むつごろ十八号」で嘉瀬村出身の宮副勝彦さんから紹介されていましたが、今日までの長年の歴史をお知らせ致します。

この会の名称は福岡市佐賀県人会堅粕支部、略称《十日会》その由来は、大正初期佐賀県出身の先輩達が抱いて福岡に活躍の場を求めて進出された方々が昭和二十四年頃やっと平和に落ち着いた世相の中で近隣におられる、同郷人同士、一人二人と知己を得られ、懐かしさもあって、県人会の大先輩の(故)山口忠一氏、原萬三郎氏が発起人となりいつとはなしに、お互いの家庭で毎月十日輪番制の奥様手料理

に舌鼓をうちながら、楽しく心の安らぎを過ごされるのだそうです。現在は原進さんのように初代の跡継ぎ二代目の会員も



かい手料理もお年を召されましたので、今は毎月の例会を会員十五名交替で幹事役を引き受け、それぞれが会場を設営し極

おられますが(中山政一さん、徳永忠治さん、久保元一さん、の三人は最初からのメンバーで)毎回元気に参加しております。当時、奥様の暖

めて和やかな親睦の宴を続けておられます。この会には、伝統のお楽しみ籤引きがあり、その仕組みは会合の度に常識的な懇親会費の一分を当たり

《すかつと、楽しい、十日会》の益々の発展を祈ります。

S・T記

佐賀県人会の地域中心の

親睦会 廿日会

私達の佐賀県人会は總會の場で、お互いに一年ぶりに杯を酌み交わすのが恒例ですが、このような会を、毎月二十日に催している、地域中心の親睦会《佐賀県人会南地区廿日会》の近況をお知らせ致します。

このメンバーの方々は南地区在住の県人会員で、会員数三十名程度なので、お互い顔染みの皆さんは、毎月廿日会を楽しみにしておられます。私もゲスト会員として、時折伺っておりますが、毎回出席率は極めて良好。午後六時から、会費は常識的基

準より格安で、食い飲み放題です。会場は当番幹事の持味を生かした奉仕価格での会合で、和気あいあいでの語らいで話題も豊富。それはそのはず、メンバーは南区在住の無津呂常任理事がこの会長さんで、大手中堅のサラリーマン、水産、農産、卸し小売業、弁護士さん、お医者さん、市会県会の先生、土建オーナー、スーパー酒屋、洋服屋、印刷、製菓、金属、車屋、石油屋と多士彩々、それぞれが一献傾けながら、いろんな身の上相談、遂には仲人話しにまで発展し、

二時間はアツと言う間にお開きとなりますが、これが、昔の県人会の原点と思います。

力しあい、隣人の絆を益々固くして相互繁栄を目指しておられます。この会の一歩心強いのは世話役として、《故郷



け合いの信頼により、会員は毎日の買い物から、大きい物なら車、家、冠婚葬祭等が、できるだけ会員のお店へ優先利用し、それぞれの人の商売に協

佐賀県に本店を置く銀行の野間支店長さん《が会員なので、仲間同士の商売、或いは、お仕事のよろろ相談を一手に引き受けて、皆さんから感謝の

以上、南区廿日会をご紹介致しましたが、これに正式会員、もしくは、ゲスト参加ご希望の方は、廿日会事務局窓口、佐賀銀行野間支店へ申し込み下さい。楽しい雰囲気集いですよ。ゴルフは各自負担です。

《楽しい、集いの、廿日会》いつも暖かい雰囲気が続けて下さい。

S・T記

ふるさとと首長



肥前町
井上 良富 町長

我が町を語る

肥前町は、佐賀県の西北端に位置し、唐津市から西へ十五キロメートル、三方を海に囲まれた農業、漁業の人情味溢れる町である。

玄海灘に沈む夕日、きれいな海に浮かぶイロハ島等自然がいっぱいである。

福岡市からの観光客も年々増加している中で、平成三年度から着工した世界のぼたんを集めた「ぼたん公園・花の里」八、七ヘクタールも平成七年オープンに向けて整備中である。

また、温泉のある国民宿舎いろは島周辺整備では、コースタルコミュニティゾーン（海辺のふれあいゾーン）整備計画の認定を受け、童話「ピーターパン」の「花と冒険の島」の整備、海の家、駐車場、海水浴場等整備、平成五年度には、高串温泉の福祉センター大規模改修と老人憩いの家建設、その他、着工以来は二十余年の歳月が経過した国営上場土地改良事業による赤坂ダムと上ヶ倉ダムの松浦川からの通水試験も完了し、これからの本町農業の発展と観光施設としても大いに期待されるところです。



妖精の橋

ふるさと紹介

肥前町

今日は肥前町の3つの顔を紹介します。

一つは玄海国定公園いろは島を持つ自然景観豊かな町です。北九州から始まる玄海国定公園の南端にある伊万里湾いろは島一帯は、波静かな湖

のようです。子供たちの楽園「ピーターパン」花と冒険の島からは、子供たちの歓声がこだましています。

二番目は温泉の町です。ナトリウム・炭酸水素塩泉（低張性アルカリ性温泉）という

長い名の温泉は、アセモ、農業カブレ等、「温泉につかればすぐ治る」と皮膚に効く温泉として評判です。

高串温泉福祉センター、国民宿舎いろは島、旅館寺浦温泉等の温泉施設は、手軽に行ける保養地として人気上昇中です。

三番目は人と人づくり。肥前町は近代西洋史の権威の元慶応義塾学長の林毅陸先生、日本初の女医養成機関、東京女子医大を創設した吉岡荒太先生の生誕地。そしてにあんちゃんの作者、安本末子さん一家が育った所です。

今、広い視野から世界を眺められる人を育てようと、小中学生の国外派遣、外国人留学生の民泊受け入れ、韓国ゲートボール団との相互交流等、国際交流協会の活動も六年目を迎えています。

います。

青春、そして

若桐の絆は、いつまでも

佐賀県立唐津商業高等学校

若桐同窓会福岡支部



支部長
浦田 辰蔵

若輩の私が（昭和十六年卒業）、三代目の福岡支部長に推薦されて十七年になる。

母校は、昭和六十三年に創立七十周年記念式典・行事を催し、本年で七十四周年を迎えた。

校史によると母校は、大正七年（一九一八年）に唐津町立商業補習学校として発足し、大正十年唐津町立商業学校、昭和四年県立に移管、県立唐津商業学校となる。依頼幾多学制の変遷を経たが、建学の精神は多くの先輩・先達達の時代を見とおしての炯眼と母校愛溢れるご盡力で今日に

至る迄引き継がれ、卒業生は今や一万二、八〇六名（商業学校二、二二三名、高等学校一万五七四名）にのぼる。

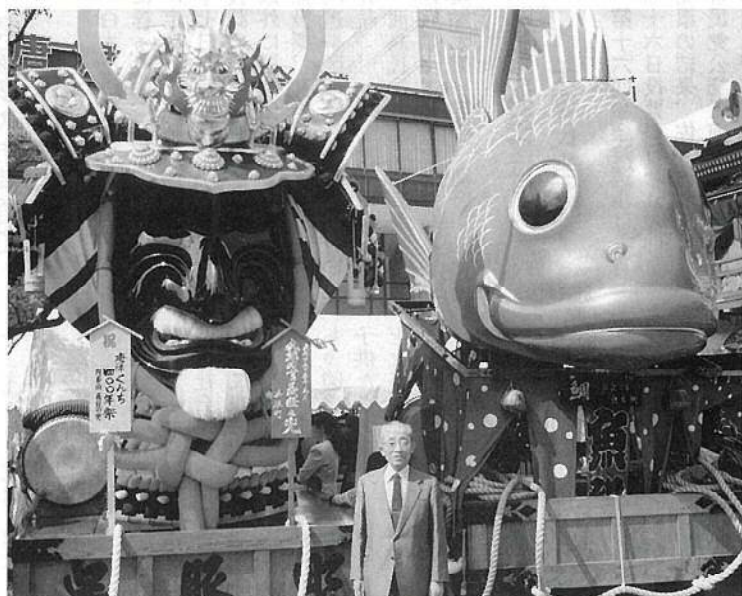
校歌に「われらが徽章は若桐ぞ、伸びよ伸びよ諸共に」とある。唐津商業のシンボルは、若桐である。卒業生相互の向上親睦を図り、母校の発展を助成することを目的に同窓会が結成され、その名も若桐同窓会となったのであろう。

若桐同窓会は、東京・大阪・佐賀・福岡に支部がある。福岡県内在住者で構成する福岡支部は卒業生中約一割の一、二〇〇名の会員で、各界各層

で活躍中である。

福岡支部総会のあり方は、一名でも多い出席を願って試行錯誤を重ね、開催時期もこの数年は、正月第三週の日曜

は毎年若干づつ乍ら増え本年は一二二名であった。やはり若い卒業生の出席が少なく、より多くの出席者、特に若干層、助成会員の増加をはかる



に開催している。平成五年は、一月十七日（日）を予定している。新年懇親会として新たな年を祝い新たな決意を誓いあう会合とした。出席者

ことが引き続いての課題である。同窓会の目的や同窓会のよさをここにあらためて説くつもりはないが、私達は年代や

現在の思想・信条或は職種はたとえ違っても同じ母校で五年及至三年間、多情多感な青春時代を送った。母校の卒業生というお互いの履歴から消し得ぬお互いの人生の歴史が重なりあった歳月がある。えにしがある。恩師達や郷土を離れている先輩・同輩・後輩が一堂に会し酒をくみ共通の思い出をたどり、卒業後の蜚雪を語り現在を語る。又未来を問う。よきかな。一名でも多い同窓生と共に肩を組み、あの八百千の港……を高くかいたうたう。楽しきかな。

今年も唐津くんちに行き、山囃子の興奮が残る今日、この原稿を依頼された。今年のくんちも秋晴れで大勢の人手で賑わっていた。多感な頃同窓生、恩師をしてくんちに代表される故郷唐津は懐かしい。年移つても鏡山・松浦川・虹の松原……の山川は変わらぬ。

青春は、なおいつまでも持ち続けたいものである。

「われら若桐たくましく、敬愛してやまなかつた故郷山英治前同窓会長の自筆を机上に」

平成四年十一月五日

佐賀県だより

カット案で合意

活躍する 佐賀県人 たち

福岡を中心にBS、CS、テレビ情報放送のシステムを創造する、八木アンテナの特約店として、飛躍的に発展しておられる、徳川春彦氏（電技社長）をお尋ねしました。

「出身は佐賀郡大和町尼寺で、徳川家の長男として、昭和二十一年春日小学校から旧制佐賀中学校に進学。二年後、教育六・三・三制度で（現在の佐賀高等学校）勉学中、母親が四十四才の若さで、幼い

福岡に住まいを構えて十五年ですが、昨年暮れから住居に近い大橋で内科・消化器科を開業いたしました。

自己紹介をさせて戴きますと、鹿島市の出身で高校までを鹿島。大阪医大を卒業し、免疫病理の研究で博士号を取得後、昭和五十二年より福岡大学一内科（奥村博教授）の

八木アンテナ特約店 電 技 社 社長 徳川春彦さん (大和町出身)



子供四人を残し病のため不帰の人となられまして、残された父親と四人の子供は失意のどん底に。それから母親に変わり姉弟の世話しながら高校を卒業されましたが、今度は柱のお父上が六十二才で身罷

われ、当時二十一才の徳川さんは、度重なる不運に途方に暮れた毎日だったそうです。しかし、これではならじと、姉弟を頼りに託し、布団袋一個で、未だ戦後の傷残る福岡に、大志を抱いて弱電機器会

内科・消化器科 しみずクリニック 院長 清水正賀さん (鹿島市出身)



もとで十五年間、肝臓病を主とした消化器病（胃、腸、胆のう、すい臓）の臨床（外来と入院）と研究（肝臓病の免

疫病理とアルコール性肝臓病）、さらに学生の教育に携わってきました。その間、アルコール性疾患の世界的権威である

ニューヨーク大学のリーバー教授のもとに二年間留学し、アルコールによる肝臓病と消化器癌発生について研究し、論文をまとめました。短期間でしたが、広大で深い米米を少しでも知ったことは、家族にとっても大きな財産となりました。

国際人を目指して欲しい若い方々には、是非留学の機会をつくってやるべきだと思っています。肝臓病の二大病因は、肝炎ウイルス（B型、C型）とアルコールです。ビ



ルス性肝炎に対しては、初めて有効といえるインターフェロン療法を実施しています。害が判っていても断てないのがお酒ですが、生活の質が問われる現在、肝臓病の方の飲酒量を決めてあげるのも私の重要な仕事のひとつと思っています。

社に奉職、専ら、家電販売の仕事で、孤独に耐えながら苦節十数年。昭和四十二年頃、テレビ放送が普及したのをきっかけに脱サラし、（テレビアンテナ専門施工会社、電技社）設立。以来、福岡の高層マンションを始め、筑紫野市東急ニュータウン七、〇〇〇戸、基山ケヤキ台団地等、次々と受注相次ぎ、益々の発展の一途をたどっていられます。

一方、趣味として伝統的古典文化に造形深く、市民大学の受講を始め、自己研鑽に励まれておられます。休日にはストレス解消に童心に帰って箱

崎埠頭の魚釣りなど楽しんでおられ、又、仕事以外の交友も広く、親しい友人に我が国の代表的書道家（大河内仙嶽親氏）或いは、音楽家（栗林義信氏）地元能楽の（堤病院々長堤成基氏）と人脈も多士彩々、これも徳川さんの偏見なきお付き合いと、頼まれれば嫌な顔なく、お世話下さる暖かいお人柄で、これは若き時代に孤独であられた環境からによるものと思ひ、私共の会に最も必要なボランティア精神が強く頼もしいお方で佐賀県人会に欠かせないお方でありまして、これからも益々ご健闘を期待します。S・T生

九州県対抗 女子駅伝で6位

九州各県対抗女子駅伝競争大会（九州陸上競技協会、佐賀新聞社など主催）が十一月二十九日、佐賀市中央大通りを発着とし、吉野ヶ里遺跡前で折り返す九区間、四二・一九五・のコースで行われた福岡が二時間十九分四十五秒で二年連続一度目の優勝を飾った。八区までトップだった熊本は、アンカーの松野明美（ニコニコドー）は最後にかわされて二位。長崎、宮崎、鹿児島順で、県チームは六位にとどまった。

'96世界・焔の博 基本計画

国際陶芸アカデミー（本部・ジュネーブ・会員約四百二十人）の世界総会をシンボルイベントに、県が百万人集客規模で九六年に計画している『世界・焔（ほのお）の博覧会』の基本計画がまとまり、十二月一日、県庁で開かれた同博覧会準備委員会（会長・井本知事）で、事務局（県国際陶芸祭準備室）から発表された。

計画によると、約三十社の開発・造成地に設置する主催

①福岡	2	20・04
②熊本	2	22・25
③長崎	2	22・44
④宮崎	2	23・20
⑤鹿児島	2	24・43
⑥佐賀	2	26・04
⑦大分	2	26・04
⑧沖縄	2	30・38

佐賀県だより

NEWS FROM SAGA

佐賀県だより

場のうち、約十二社をパビリオン会場とし、四百人収容の『焔のシアター』と世界の陶芸作品を展示する『焔のギャラリー』を備えたテーマ館、地上四階建てのシンボルタワーを設置する中央広場を核に、『世界芸術交流』『未来産業創造』『地域文化交流』などゾーンに分ける。



佐賀市が七連覇

第七回県都市対抗女子駅伝競争大会が十二月六日、佐賀市中央通りの日祐本店前をスタート、ゴールとする五区間二十・のコースで行われた。序盤から独走態勢を築いた佐賀市が一時間十分〇秒で七連



九州国際空港に 調査費

九州国際空港問題で井本県知事は十二月九日、有明海灣

15市郡の成績

時間	分	秒	順位	市郡
1・10・00			①	佐賀市
1・12・32			②	佐賀郡
1・12・44			③	杵島
1・13・06			④	東松浦
1・14・24			⑤	伊万里
1・14・45			⑥	神埼
1・15・02			⑦	多久
1・15・07			⑧	西松浦
1・15・13			⑨	鳥栖
1・15・36			⑩	藤崎
1・16・12			⑪	養基
1・16・48			⑫	三武雄
1・17・22			⑬	唐津
1・17・30			⑭	唐津
1・18・33			⑮	小戸

嘉瀬川ダム 建設に着手

九州地方建設局は十二月二十一日、嘉瀬川ダム（富士町）本体工事に向けた工事用道路の起工式を行った。昭和四十一年の予備調査以来、二十六年ぶりのダム建設着手で、順調にいけば、平成九年度にダム本体工事が始まる。

嘉瀬川ダムは洪水調整、かんがい用水、都市用水の開発を目的にしたダム。重力式コンクリート式で高さ九十七メートル、総貯水量七千八百万トン、有効貯水量六千八百万トン。総事業費は約千八百億円。完成目標は平成十四年。

奥への誘致に向け、来年度予算に適地調査費を計上する方針を明らかにした。同空港問題は各県の思惑が絡み選定作業が遅れている中、国際空港関連の予算化は福岡、熊本両県に続き三県目。同日の県議会（自民）が『有明海灣奥部の優位性をもっとアピールすべきだ』と質問したのに答えた。

知事、鍋島直紹氏でこのお方が終戦後の昭和二十七年福岡市の護国神社においでになり、在福佐賀県人会員約一千人が集まり盛大な祝典懇親会が催されたものであります。それも、四十年の歳月を経て当時の模様を語りつがして聞かせる先輩の方々も数少なくなつて参りましたが、そのお話を聞くと、在福佐賀県人諸先輩の偉大なご努力が無限に想像され身の引き締まる思いが致します。

尚、お殿様知事の後裔は現在東京から、東北仙台に移り住んでおられる模様です。お問い合わせは、鹿島市役所広報課にお聞き下さい。佐賀本家小城分家は東京、蓮池分家は福岡市におられる旨を聞き及んでいます。以上佐賀鍋島藩の報告ですが会員の皆様にご一読下されば幸甚に存じます。尚、この資料提供に、鍋島報効会の藤口悦子学芸員に大変お世話になり深く感謝申し上げます。

「掃きだめにツル」的存在だった名ゴルファー、鍋島直泰

日本の古き良き時代の代表的ゴルファーといえ、**「鍋島のやっちゃん」**だろ。元貴族院議員、侯爵で、宮内庁式部官をつとめた故鍋島直泰氏。佐賀・鍋島藩の「殿様」だから、私たちの間では「殿」とも呼ばれていた。ご自身は、はじめての人には「猫騷動の、です」と自己紹介されることもあった。

ゴルフはもとより、私の知る限りでも、チョウの研究、汽車の模型、クラシックカー、切手の収集、イヌ、カタツムリの飼育など、趣味の広さ、深さの点ではたぐいまれな人物だった。

英国の貴族は、生産的なことに手を染めないという伝統を持っていた。うだ。だからギリシャ語、日本語といった、かつてはあまり使いみちのないような言語を学び、非生産的たらんと努めたという。

その意味でも、鍋島さんは大英帝国の貴族と肩を並べることができるほど非生産的な、希有の存在



殿様ゴルファー鍋島直泰氏

はその時代は知らない。戦争が終わって、日本人がゴルフを再び楽しめるようになったころ、鍋島さんが初めて相模に見えた。

ベンガラ色のシャツがばかに派手に見え、黒々とした髪をきれいに整えていた。細くて、いまにも壊れそうな体つきであったが、大きなスイングアークが印象的だった。

地から帰ってきていなかった。技も形もさえないゴルファーが多く、鍋島さんは掃きだめにツルのように思えた。

当時、学生ゴルファーは珍しかったから、私はよく励ましていた。旧程ヶ谷で日米合同の競技会が開かれ、私はバッグをかついで相鉄・星川駅から歩いていった。小雨のなか三十分

以上かかってコースにたどりついたが、どうした風の吹き回しか、その試合で私は二位に入った。大人にまじっての試合だったので、天にも昇る心地であった。

試合後、参加選手に進駐車からステーキやケーキが振る舞われた。宴たけなわになると、酔った米軍将校が、「ボールをあげるぞ」と、節分の豆のようにボールをばらまく。それを日本の選手が拾って歩いたのだから、いま思えばずいぶん哀れなものだった。そんなときでも「殿」だけは、背すじをびんと伸ばしたまま、洒落た手つきでスコッチを飲んでいった。

その試合の直後のことだった。私のもとに流れるような達筆の封書が届いた。

鍋島さんからで、第二位になったことを快挙と喜んでくださり、将来を楽しみにしていると書いてあった。封筒も便箋もすかしの入った和紙で、それがいかにも映えるような達筆であったから、私はすっかり恐れ入った。

そのことが契機になって、私は鍋島さんのゴルフのお相手させていただくようになったのである。

鍋島殿様ご一族の今昔

《はがくれ精神の伝統》

福岡市佐賀県人会の会員から《はがくれ精神の基本》鍋島殿様ご一族の今昔、佐賀の国主制度の伝統について、質問がありましたのでお答え致します。但し、筆者はズブの素人なので文中に史実が間違っているかも知れませんが、その点はお許し下さい。

一、(業隠) はがくれ、の語源は私達の郷佐賀県伝統の《はがくれ精神》と言ひ伝えられているが、この中に盛られた精神を一言にしていえば実(まこと)一つ、それも陰のまことが一番尊い。つまり自分の事を言ひふらすのは良くないと説かれていた。万事に正当な意見行動にしてもすべからず控えめに、相手を傷つけずこの気持ちで鍋島藩人の嗜み、と諭してあります。

(業隠) 成立の時期は藩祖、鍋島直茂公の時代(西暦一五

三八天文七年から、西暦一六一五年元和四年) 昔をさかのぼる事約三百八十年。私達の郷土佐賀の代名詞のようになつてしまつたが、「業隠」とは一体どんなものでしょうか。この言ひ伝えは業隠聞書とも言い、佐賀二代藩主鍋島光茂につかえていた、山本常朝(殉死を禁じられ仏門に入り、旭山常朝と号す)が宝永七年(西暦一七二〇年)享保元年(一七二六年)の間に口述し、田代陣基が筆録した聞書に、他の人々の聞書の中から古記録を加えて編さんされたものだそうです。その精神の基本は四請願として示します。

一、武士道においておくれ取り申すまじき事。

一、主君の御用に立つべき事。

一、親に孝行仕るべき事。

一、大慈悲を起し人のため

になるべき事。

以上が業隠四哲で現在も、業隠研究会シンポジウムが毎年、有名文化人を交えての集いが開催されております。

(佐賀県立図書館、業隠研究会(代表・古賀秀男氏)主催) 今、現代風に青少年向けには、(真剣に、仲よく、頑張る、の三つに纏められているようです。又、幼年期の子供たちには《うそいわぬ、よくばらぬ、へこたれぬ》こうして現代も佐賀、蓮池、小城、鹿島、各、鍋島藩を中心に、業隠教育がいつも培われて、県民総調和の気分が表されています。

二、鍋島家佐賀藩は昔から興味本位の「鍋島けけ猫騷動」による先入観で、竜造寺家から鍋島が乗ったかのような印象がありますが、史実は異なるようです。竜造寺隆信の伯母が直茂の母で、二人はいとこ同士のうえ、隆信の母が直茂の父に再婚して、義兄弟の相柄にもあり、《竜造寺・鍋島は表裏一体》の国王であった。直茂は隆信の片腕として度重なる功績を上げ、又人格識見に優れ、家臣の信頼も厚く、隆信は遺言状で「我亡き後は万事、直茂に相談する様」

に指示し、竜造寺の跡継ぎの政治家は病弱の為隠居になり、その子、高房は五才であったので、直茂が竜造家の国政を預かる事となった。当時は豊臣秀吉時代。その後、徳川江戸幕府になり慶長十八年(西暦一六四三年)徳川政権より竜造寺から鍋島氏へ政權交替の失印状が直茂の嫡子、《勝茂》に交付され、佐賀、鍋島藩三十五万七千石の祖、鍋島直茂が誕生、初代藩主を勝茂とする。引き続き、小城鍋島分家、七万三千二百五十二石、蓮池鍋島分家、五万二千六百石、鹿島鍋島分家、二万石、と三支藩の創設によって、鍋島氏の支配が確立した。その主従の団結と家臣の忠誠度は当時の武士道の鑑となり、主君没すれば、側近の家来が追腹切って殉死する習わしがあり世間では美談として伝えられていた。しかし、寛文二年、追腹殉死禁止令が出され家臣は生残って、誠忠を尽くすべきとなる。このような、固いつながりが不時の天災による財政難のなかでも当時の近代軍備をととのえて、薩摩、肥後、長州、土佐、の仲間入りを果たしながら、強い戦力を維持し豊臣秀吉の朝鮮出兵に

鍋島直茂公、自ら出陣し、あまつさえ名護屋城普請、及び、天草の乱に出兵、その後徳川幕府直参天領の唐津城築城まで引き受け多額の出費を余儀なくされ耐え忍ばれ、併せて弘化元年、火砲術研究所を開設しその結果、超大型の「アームストロング砲」を完成された由に聞いております。この間、鍋島藩制には他国で頻発していた百姓一揆を一度も起こした事のない統制のとれた佐賀藩の政治力は江戸時代に特筆すべき高い評価であると思ひます。これとて、この原点は、取りも直さず《はがくれ精神》にある勤勉さがよく感じられ、鍋島藩全員の固い団結による成果を如実に物語っていると考えられます。爾来、今は十四代鍋島直要氏は東京在住ですが、十三代鍋島直泰氏は文明開化の昭和の初期「お殿様」ゴルファーとして有名を馳せ、現在のゴルフブームの先鞭をつけられた、超近代的なお方であった。その触りをご紹介致しますが絶好調の時は「ラウンドで二回のホールインワン」を記録された逸話もございます。

さて、私達の身じかな鍋島様は鹿島分家の出身のお殿様



はげと還暦

徳久 義郎 さん

伊万里で生を受け、今年で
 やっと還暦となる。三十才前
 後から徐々に髪が寂しくなり
 始め、良く云えば貴禄、悪く
 云えばハゲチャピン。先行し
 ていた頭にどうやら正真正銘
 の年令が追いついた感じた。

銀行時代、訪問先と一緒に
行った上司より先にお茶をい
ただいたり、貫禄で信用され
たり、得した事も多かったが

公職に共に

島内 一雄 さん

昭和十五年三月、佐賀県立佐賀工業高等学校卒業、同年四月、日鉄八幡製作所・監理部に入社し、昭和二十二年六月退社と同じに水産物の家業に従事、現在にいたっている昭和二十八年、島内鮮魚(株)創立、昭和三十一年、十月、島内商事(株)創立、四十九年、代表取締役就任、社業と共に他の役職も多く毎日多忙もき



(西區拾六町四一五一六)
☎ 八九一—一二五〇 島内
商事(株)代表取締役 杵島郡
有明町出身)

会員の作品を

お待ちしています

「会報むつろ」の紙面を通じて、相互交流を深めましよう。

創作、随想、釣り自慢、レジャー紀行文、短歌、俳句、子供たちの作品、サークルの発表会——なんでも歓迎しています。

絵画、書、造形作品などの場合は写真をお送りください。おまちしています。

投稿作品には、テーマ、住所、氏名、年齢、職業（学校・学年）出身地を記入してください。

また、要点、連絡先を電話
いだくのも結構です。のちほ
どこちから取材いたし
ます。

入会の勧め

県人会では毎年恒例の行事として、年度総会および懇親会を催し、會員の親睦、交流を図っています。また會員には年二回発行の「会報むつろぎ」をお届けします。未加入県出身者に入会を勧めて下さい。入会あるいは紹介の問い合わせは、県人会事務局へどうぞ

高速バス **SAGAN WAY**
唐津・佐賀 ←→ 大阪（梅田）
毎日1往復

お問い合わせ・ご予約は
大阪線高速バス予約センター ☎ 0952 (24) 9330

●通 篇

唐津シーサイドホテル前～大阪
片道 10,000
往復 18,000
佐賀駅バスセンター～大阪
片道 9,700
往復 17,500

唐津20:20発
佐賀21:30発
↓
大阪7:25着
(梅田)

大阪(梅田)22:00発
↓
佐賀7:55発
唐津9:05着



昭和自動車株式会社

「佐賀の殿様」、故鍋島直泰氏が戦前の全日本アマチュアで三連覇したことは、戦後のゴルフファアの間ではほとんど知られていなかった。鍋島さんが有名になったのは、昭和三十六年に九ホール中に二度もホールインワンという快挙を成し遂げてからだ。

この年の三月五日、横浜の旧程ヶ谷のバックナインでの出来事だった。イン10番（一五七㍑）は谷越えの上りで、ティーより二〇㍑ほど上にグリーンがあった。アイアン4番のティーショットは、

「一手こたえはあったけど、入っているとは思えなかった」

で正直に告白された。前の組には外務大臣をしていた小坂善太郎氏がいて、ポールが止まったところに手を振って大騒ぎを始めた。「なにやってんのかな」と鍋島さんは思ったというが、これが第一号のポールインワン。

第二号は16番（一四七）だった。6番アイアンで打ったボールは三バウンドほどで穴に消えた。

それから十日ほどして、私は鍋島さんといっしょに食事をした。

「一九ホールで二つのホールインワンは奇跡だという人もいるが、とんでもない。二つ目はちゃんと意識して入れたんだ」

16番のショートホールはグリーンを少し見下ろす角度で打つから、グリーンを転がる球が見える。

「だらしなやつだ。次のティールで使うドライバーを持つんだよ」

まったく手がつけられないほど、その夜の鍋島さんは無邪気に喜んでいた。当時、アマチュアとしては世界で五人目の稀有な記録といわれたから、喜びも当然といえよう。

いねいにとった。なんとも大げさな、しかし、まるで踊りのように美しい所作だった。ちょうどそのとき、すれ違いのホールのフェアーウエーを歩いていた林由郎プロがこれを見て、

「いい気持ちで、楽しんでるなあ」とつぶやいた。



鍋島氏のティーショット（ベースボール・マガジン社「日本ゴルフ60年史」から）

「おい、ホールインワンを英語で複数でいうときには、どこにSをつけたらいいんだ？これが第一声だった。」

「ワンを複数にすると、どうも気味が悪くてね。どっちだろ？」

アルコールがしだいにきいてきて、ご機嫌である。

「落とそうと思ったところに落ち、三つ目のバウンドで入れようと思って入れたんだ。ところで、おい、武。グリーンにのるときには何を手にしている？」

と、殿が聞く。

「グリーンへするときには、バッテリーを持ってるでしょうね

純粹にアマチュアらしいゴルフの楽しみ方をした人だった。

名古屋・和合の中日クラウンズでプレーしたときのことである。ボールに芝草がついているのを見た鍋島さんは、右ひざを折り、すーっと右手を軽く伸ばして、その草をて

この、つぶやきには、いろいろな意味があったのだらう。過去の栄光につつまれ、楽しく、しかも真剣にプレーしているゴルファーの姿を見ての率直な感想だったと思う。

鍋島さんの最も幸福な瞬間は、研究し、練習した秘術を実行して、うまくいったときだったに違いない。

ストロークプレーで、グリーンオーバーした球が裸地のいやなライに止まった。6、7番でランアップしたい状況だったが、鍋島さんはヒッコリーシャフトのウエッジを持ち、クリーンに打った。結果はピンそばというわけにはいかなかった。

プレーが終わって、このときのクラブの選択に話が及んだとき、

「天下の鍋島が、あんなところで転がせるか」

結果はともかく、そのスイングをほめたりしたら、破顔一笑する人であった。

(週間朝日 金田武明の「私の出合った名ゴルフファール」より転載させていただきました。編集部)

新会員ご紹介

敬称略氏名・連絡先
電話番号・職業・出身
地の順

早木 功

▽岩田屋▽牛津

町 前山 文雄

東芝プラント建設▽佐賀市

永淵 正法

部▽佐賀市 九州大学医学

大串 早苗

自動車販売店協会▽白石町 福岡県

澤村 利次

▽鳥栖市 鶴亀薬局

鶴崎 剛

局▽鳥栖市 福岡市港湾

水間 繁俊

本店▽嬉野町 平和桜

会員・支部の動向を ご連絡ください

人事異動や慶弔行事、親ばくの集い—いろいろあっていることだと思います。

掲載期日がおくれるので、ご不満はあるかと思いますが、会員相互の消息を知りあうためにも、ぜひ、連絡をお願いいたします。

また、地元や職場でももし新しいニュースがあったときもお知らせください。楽しい紙面づくりのために協力をお願いいたします。

「むつごろ」の

広告欄をご利用ください
広告スペース、一回の広告料金はつぎの通りです。

「全一段分」 幅十五

×高さ四以内(二万円)

「一段一分の二」 幅七

×高さ四以内(一万円)

「一段四分の二」 幅三

×高さ四以内(五千円)

県人会報「むつごろ」は年

二回発行しています。

広告掲載ご希望の方は、お早めにご連絡ください。なお、勝手ですが、掲載位置については事務局におまかせください。

編集デスク

平成五年新春号をおとどけいたします。

正月にふさわしい内容になる様、役員の皆さんにご協力いただきました。特に『鍋島殿様一族の今昔』は会員の方から「鍋島さんはどきやしよらっそうか」との声にお答えする特集です。沢山の資料から一部を掲載させていただきました。資料提供に特別のご配慮いただきました。鍋島報効会の藤口悦子字芸員に感謝申し上げます。『殿様ゴルファー鍋島直泰氏』の記事は「金田武明の私の出合った名ゴルファーたち」より転載させていただきました。

『ふるさと会』はいみじくも「十日会」「二十日会」の両横綱格に登場いただきました。何れも、その歴史・活動において県人会として手本にしたい親睦会です。皆さんの地区でも参考にして「集い」を作って、より親睦を深めてみてはいかがでしょう。

『同窓会』の紹介では、唐津くんに血を沸かす若桐同窓会の浦田辰蔵支部長に登場いただきました。

『佐賀県だより』については毎号佐賀新聞社さんに提供いただいております。ふるさとニュースのダイジェスト版として好評をいただいております。ありがとうございます。

毎号記事集めに協力いただきましたました役員の方々に厚くお礼申し上げます。特に新春号にふさわしい記事や訪問記をまとめていただきました高田副会長にお礼申し上げます。これからも郷里を同じくする仲間が集まって県人会を育て「むつごろ」を支援いただきます様お願いいたします。

会報むつごろ

平成5年1月25日 発行

福岡市佐賀県人会

(発行責任者 田中 秀男)

福岡市中央区大手門2-3-7

昭和商事石油株式会社

☎ 092-714-3111

製作 (有) タナカ製本印刷所

☎ 0955-23-5214

人集るところに昭和

信頼にお任せすべく、努力を続けて43年

福岡昭和タクシー株式会社

代表取締役社長 金子宜嗣

〒810 福岡市中央区渡辺通2丁目4番1号

☎ 092-761-2531(代)